

## 小学生のお子様をお持ちのお父様・お母様へ

小学生高学年（5・6年生）の学習内容は高校受験に向けての第1歩です。

「高校受験は、まだ先のこと」とお考えではありませんか？ ゆとり教育以前から小学校高学年の学習内容は、中学校課程に引き継がれています。特に算数・国語は小学校教育内容の延長線上に中学校教育課程があります。つまり、小学校の学習内容の理解があやふやでは、中学校の学習に支障が出ます。

**「ローマは1日にしてならず」**の諺どおり、学習時間と内容の積み重ねが大切になります。

10年来の経験から申し上げることは、**質**（学習内容・レベル）と**時間**（集中して学習する時間）の**積み重ね**が遠い先の目標達成に現れます。

### 中学生になるまでに必修の学習姿勢

- 勉強に対して真摯に取り組む。（いい加減な態度・姿勢で勉強しない）
- 勉強は自分に必要だと自覚できている。（受動的な意識で勉強しない）
- やるべき課題を期限内にやりきる（少しずつでも毎日取り組む）
- 集中と緩和を切り替えるようにする。（On と Off の切り替えをする）
- 回答だけを求めない（回答までの正しい道筋を学ぶ）

「言うは易く行うは難し」ですが、中堅校以上の高校への進学をご希望されるならば、小学生高学年から地道に努力する必要があります。

### 中学校の数学でコケないための必須事項

- 整数の加減乗除（計算の工夫・和差算・等式・不等式など）
- 分数の加減乗除（分数の概念・分数の利用）
- 割合や単位量の概念と計算（割合・速度・単位量・単位）
- 立式（論理的に考え、式を立てる）
- 比や比例の概念（比例・反比例・規則性）
- 平面図形（平行の特徴・三角形や多角形の特徴や内角と外角・円の面積と円周）
- 複合図形（複合図形における角度計算・図形の回転・折り返し・相似の概念）
- 立体図形（展開図と接点・辺と面の関係）
- 場合の数（確率の基礎）

基礎学力だけでは中学校で苦勞するケースが多く見受けられます。また、式を立てることを多くの子どもたちは嫌う傾向にありますが、立式は論理的に考える基礎になりますので、非常に大切です。

中学数学がわからない子どもは、分数（分数基礎・利用）が苦手な場合に多く見受けられます。

暗算が得意に越したことはありませんが、筆算を面倒がらずに確実に計算できるようになっておきましょう。

## 中学校の国語でコケないための必須条件

- 物語文の読解（台詞や情景表現に注意を払う）  
登場人物の台詞から感情やその変化を理解する・場面の情景を作者の表現から読み取る。
- 随筆文の読解（表現された事柄と作者の感情・意見に注意を払う）  
作者の表現した情景や出来事などと、それに関する意見や感情を理解する
- 論説文・説明文（筆者の述べたいことを接続詞などに注意し、理解する）  
段落に記述された内容をつかみ、段落関係や意味・作者の意見を理解する。
- 韻文（作者の感動や表現したい感情をつかむ）  
詩や短歌など、短い言葉に含まれる感情や感動を推測し表現の豊かさを理解する。
- 漢字・語句・慣用句

映像世代の現代っ子にとって行間を読むことは難しいことです。小学校の間に読書の習慣を身に着け、多くの文章に慣れることが最良でしょうが、易しいことではありません。数多くの文章に触れる機会を増やすことが、せめてもの方法でしょう。

## 中学校の英語でコケないために

- 小学生のうちに中学1年の単元をマスターさせる。
  - 英語を書くこと発音に慣れる
  - 英語のルールを理解する（主語+動詞+〜）
  - 疑問詞・接続詞・副詞・形容詞などの働きとルールを理解する
  - 文の種類（肯定文・疑問文）の際のルールを理解する。
  - 少しでも多くの単語に慣れる
- 4年計画で受験に備える。
  - 中学2年次3学期には3年間のカリキュラムを終える
  - 長文対策を中学2年後半より導入する。（長文の実力は量・質に比例します）
  - 中学3年より総合復習と長文対策・受験対策を行う

中学英語はルール（文法）と単語さえわかれば、子どもたちにとってパズルの要領で解くことができる教科です。英語を得意科目とするだけでなく、学習に対する自信が生まれます。定期考査・実力考査時に英語に割く時間を少なくして、他の教科へ時間配分を多くすることができます。よって、数学・理科・社会と覚えることが多い中学時期の学習時間をより効率的に確保することができ、他教科の取組も余裕が生じます。（不得意教科の克服）

## 中学生になってから後悔しないために

冒頭でも触れましたが、不断の努力を続けることは大人でも困難です。それを実行する環境が必要です。家庭学習だけで可能な人もいらっしゃると思いますが、大多数は誘惑に負けてしまいます。

少人数での学習環境は、各人の理解度や気力をきめ細かく把握でき、適切に対応できるメリットがあります。また、勉強だけでなくメンタルケアも行えます。集団の中に埋もれて流されるよりも、より効果的な学習スタイルです。